

つながる

Tsu-na-ga-ru

10月号 2020
October No.03



SPECIAL REPORT

中日新聞「リンク」
LINKED
plus+
病院を
知ろう

地域で消化器がん医療を 完結させるために。

消化器内科特集

CONTENTS

- 1 治療を学ぼう
- 2 チーム医療を知ろう
- 3 地域医療を学ぼう!
- 4 最新TOPICS
- 5 HOSPITAL NEWS

院長メッセージ

超高齢化に伴い、圧倒的に増えている消化器がん。総合的な医療を提供する岡崎市民病院と、がん医療を専門としてきた愛知病院の医療機能を集約させることで、地域の消化器がんに対するニーズに対して、確実にお応えできる体制を整えました。今号の「消化器内科特集」をぜひご覧ください。

SPECIAL REPORT

地域で消化器がん医療を 完結させるために。

消化器内科特集

総合的な医療を提供する病院とがん専門病院の
 特色が一つになって、新しい地域医療の扉を開く。



CHAPTER 01 内視鏡を用いた 消化器がん治療を強化。

平成31年4月、岡崎市に愛知県がんセンター愛知病院(以下、愛知病院)が経営移管された。愛知病院はがん医療を専門とするがん診療連携拠点病院。そして、岡崎市民病院は、二次救急を担い総合的な医療を提供する地域の中核病院。両者の専門性の高い医療機能を集約させることにより、消化器がんに対する医療全般を切れ目なく、継続的に提供する体制を整えたのだ。

移管から1年余り、岡崎市民病院の内視鏡センター(消化器内科)を訪ねた。内視鏡センターは救命救急センターに隣接し、緊急の内視鏡検査・治療を行うほか、消化器がんに対する高度で低侵襲(傷が小さく、痛みが少ない)の治療を行っている。「この1年を振り返ると、より一層内視鏡センターの能力を発揮できるようになったと思います」。そう語るのは、移管に伴い、愛知病院から赴任した、消化器内科統括部長の藤田孝義である。その言葉を裏づけるように、以前に比べ、内視鏡を用いた消化器がんの検査・治療件数は増加している。「私たちが力を入れているのは、早期消化器がんの内視鏡診断と治療です。早期に発見できれば、ESD(内視鏡的粘膜下層剥離術・詳しくはP1参照)により、確実に治すことができます。また、膵臓がんに対する内視鏡診断のほか、特殊なところでは、小腸カプセル

CHAPTER 02 早期発見から低侵襲治療、 フォローまでを切れ目なく。

従前の消化器内科の高度医療に愛知病院の医療機能を集約させ、さらにパワーアップした消化器内科。しかし、すべてが順風満帆というわけではない。実は医師不足に悩んでいるという。「理想のチーム医療を行うために、もう少し専門医がほしい。そこで、大学医局に医師の赴任を働きかけるとともに、若手医師の育成に力を入れていきます。また、若手医師に選んでもらえるように、働き方改革を通して、医師が効率よく仕事できる環境づくりを進めています」(藤田)。さらに同科では、内視鏡検査に対する患者アンケート調査を行うなど、患者の満足度を高めるための取り組みにも着手した。「サービスの改善により患者さんの評価が上がれば、医師やスタッフのモチベーションも上がり、やりがいも増します。患者さんもスタッフもみんなが満足できる、そんな職場にしていきたいと思います」と藤田は話す。

内視鏡やダブルバルーン小腸内視鏡を用いた、小腸疾患の検査・治療も行っています。また、肝臓がんに対する超音波検査と局所治療を、積極的にを行っています。(藤田)。
 さらに、同院では進行がんに対する緩和目的の内視鏡治療にも力を注いでいる。それが、ステント(網状金属の管)治療だ。がんが進行し、胃や大腸が閉塞すると、食事が取れなくなるだけでなく、激しい嘔吐などを引き起こす。そうした痛みや苦しみを和らげるために、同院は内視鏡を用いて閉塞部位にステントを留置する治療を実施している。「愛知病院では、こうした緩和治療にもコツコツ取り組んできました。当院でもその実績を活かし、がんを闘う患者さんに、高度な低侵襲治療からQOL(生活の質)を高める治療まで、一貫して提供していきたいと考えています」と、藤田は意欲を語る。

COLUMN

●この病院でも、がん診療は多職種によるチーム医療で行われる。だが、藤田はさらに一歩進んで、「かかりつけ医を含めたチーム医療こそ、がん診療の鉄則」だという。診療所が早期検査と診断を担当し、病院が最先端の治療を行う。その後のフォローは両者が協力して行うチーム医療だ。
 ●同院は、病診連携をより深く広く展開することにより、病院と地域が一つのチームになって、地域のがん患者を支えていこうとしている。

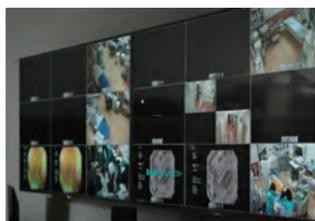
こうした院内改革に加え、藤田が何よりも力を入れようとしているのは地域の医療連携ネットワークだ。

「愛知病院の移管により、命を救う治療から緩和治療までを継続して提供する体制が整いました。あと、もう一つ強化したいのは、がんを早期発見する機能で、それは診療所の先生方をお願いする部分です。診療所が病気を見つけ、当院が高度な低侵襲治療を提供し、その後は両者が協力してフォローしていく。そんな一連の流れを、より良い形へ発展させていきたいですね」(藤田)。実は同院は以前から、愛知病院、医師会との三者合同で、「岡崎消化器病状例検討会」という勉強会を年に3回、開催してきた。現在はコロナ禍で中断しているが、こうした機会を通じ、医師同士の情報共有をより緊密にしていきたい考えだ。「地域の医師会や診療所との連携を深め、治療から在宅療養まで継続した医療体制を構築していきます」。藤田は力強い口調でそう語った。

BACKSTAGE

医療圏の医療機能と 患者支援機能を繋ぐ、 消化器がん治療の拠点へ。

●岡崎市民病院は西三河南部東医療圏で唯一の、がん診療を含めた高度急性期医療を担い総合的な医療を提供する病院である。その存在意義は愛知県がんセンター愛知病院の移管によってより明確になったといえるだろう。
 ●消化器内科は、地域の医師会や診療所と協力し、早期発見から終末期に至る消化器がん診療を医療圏内で完結させる役割を担っている。すべての消化器がんの患者を支える拠点としての、さらなる発展に期待したい。



岡崎
の
Cure^{キュア}

治療を学ぼう

今回のテーマ

ESD(内視鏡的粘膜下層剥離術)

ESD(内視鏡的粘膜下層剥離術)とは?
早期消化器がんに対する内視鏡治療の一つ。
お腹を切らずにがんを切除します。

■ 早期であれば、大きながんでも一括切除が可能です。

消化器(胃や大腸など)に早期がんが見つかった場合、かつては主に外科手術を行ってがんを切除していました。しかし、医療機器・技術の進歩によって、現在では内視鏡(胃カメラや大腸カメラ)を使ってがんを切除する「内視鏡治療」が広く行われるようになってきました。ESD(内視鏡的粘膜下層剥離術)はその内視鏡治療の一種で、粘膜の下にある粘膜下層に薬剤を注入し、がんを浮かせてから専用のナイフで少しずつ剥ぐ、という最新の治療法です。ESDの登場前は、がんリング状のワイヤー(スネア)をかけて焼き切る、EMR(内視鏡的粘膜切除術)という手法が一般的でしたが、一度に切除可能な範囲に限られるEMRに比べ、広い範囲を一括切除可能なESDの有用性は高く、現在ではESDが早期消化器がん治療の主流になっています。



■ 機能を温存できる、体に負担の少ない治療法です。

ESDをはじめとした内視鏡治療の最大のメリットは、「患者さんの体への負担が少ない」ということです。外科手術のようにお腹を開いたり穴を開けたりすることもないですし、粘膜付近を剥ぎ取るだけなので臓器の形状や機能を損なうこともありません。その結果、入院日数も胃で8日、大腸で7日ほどと短く、比較的短時間で元の日常生活に戻ることが可能です。但し、こうした内視鏡治療のメリットを享受するためには、がんの早期発見が不可欠です。現在ESDは、胃がん、大腸がん、食道がんという3つのがんの治療法として保険収載されていますが、そのすべてが粘膜内にとどまる早期がんに限られています。がんは早期段階ではほとんどが無症状です。定期的ながん検診を受け、できるだけ早くがんを発見できるように心がけましょう。



Doctor's message



消化器内科統括部長
藤田孝義

内視鏡検査、内視鏡治療を軸にがんの早期発見・治療をめざします。

当院の内視鏡センターでは、胃カメラや大腸カメラなどを使った内視鏡検査に加え、早期がんの内視鏡治療に力を入れています。特に早期胃がんのESDについては、これまで多くの症例を積み重ねており、現在はその経験を活かしながら、比較的難易度の高い食道がんや大腸がんについても積極的にESDを実施。2015年度に62例(胃38例、大腸22

例、食道2例)だった実施件数は、2019年度には119例(胃73例、大腸39例、食道7例)まで増加しました。消化器がんは早期に治療を行えばかなりの確率で根治させることが可能です。当センターではこれからも、がんの早期発見と早期治療に全力で取り組んでいきます。



プラス
α

▶ 食生活改善①

朝、昼、晩の食事は欠かさず、バランス良く食べて、規則正しい生活を心がけましょう。

岡崎
の
Team^{チーム}

チーム医療を知ろう

今回のテーマ

緩和ケアチーム

重い病気によってさまざまな苦痛を抱える患者さんとご家族を、チームで支えていきます。

■ 医師と多職種がチームを組み、心身の安定を図りつつ、治療に専念できるようサポートします。

重い病気を抱えると、ご本人やご家族は、身体的、精神的、社会的な苦痛を抱えます。そうしたさまざまな辛さや痛みを和らげ、少しでも豊かな人生を送ることができるよう支援するのが、「緩和ケア」です。

対象は、がん患者さんをはじめ、非がんであっても病気に伴ういろいろな苦痛を抱える方とご家族。そして、終末期だけではなく、もっと早期から専門的なケアを、チームを組んでご提供していきます。

チームメンバーは、医師、がん性疼痛看護認定看護師、公認心理士、薬剤師、リハビリスタッフ、MSW(医療ソーシャルワーカー)。それぞれの専門性を活かし、患者さんが治療やケアに安心して臨んでいただけるよう努めていきます。



Staff's message



緩和ケアチーム
がん性疼痛看護認定看護師
森 千晴

地域の方々とともに、また、当院のがん看護向上をめざし活動しています。

緩和ケアチームの活動の一つとして、看護外来を行っています。外来診療でがんの告知を受けた患者さんのなかで、継続サポートが必要と思われる方を対象に、医師に聞けなかったことや、今後の治療での疑問点など、患者さんが正しく理解できるまでサポートを行います。

また、がん治療や緩和ケアについて、地域にかけ市民講座や、医療従事者向けに看

■ 多岐にわたる患者さんの悩み、困りごとをしっかりと聞きし、必要な支援をご提供します。

緩和ケアで特徴的な患者さんの困りごとは、例えば今回の「特集」ページでご紹介した消化器系疾患の場合でいうと、手術による痛みをはじめ、治療による副作用、さらには、物が食べられない、便秘になるなど、多岐にわたります。

こうした一つひとつの困りごとについては、平日に毎日行っているチームでの病棟ラウンド(回診)の際に把握し、チームでディスカッションを行います。その結果を主治医に提案する、専門領域の認定看護師を活用するなど、必要に応じた支援に繋がります。患者さんを支援する上で大切なことは、患者さんと私たちとの信頼関係。ご本人の思いをしっかりと受け止め、常に寄り添い支えていきます。



護研修なども実施しています。ただ、コロナ禍の現在は残念ながらその機会は減っていますが、収束に至った際には、より積極的に行っていきたいと考えています。

院内においては、がん看護の充実をめざし、看護研修を実施。市民病院の看護師として、がん看護実践能力の向上に力を注いでいます。



プラス
α

▶ 食生活改善②

野菜は、ビタミンや食物繊維などの健康に有益な栄養素が豊富。毎日欠かさず取りましょう。

最新 TOPICS

新型コロナウイルス感染症対策を強化しています

当院では、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のために、下記のような対策を実施しています。皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

来院時には必ずマスクの着用をお願いします。



1 体温をリアルタイムで計測できるモニターを導入 NEW!

当院の正面玄関では、現在、発熱者のスクリーニングを行っています。8月からは、体温をリアルタイムに計測できるモニターを導入しました。これは、来院者の体温をリアルタイムで計測できるもので、モニター前に立っていただくだけで体温を測定することが可能です。スタッフが一人おひとりをご案内いたしますので、体温測定にご協力をお願いいたします。

2 正面玄関開放時間の変更

9月1日より、開放時間を以下のとおりとさせていただきます。

平日 午前8時～午後5時 休日 開放しません

3 面会制限の強化

当面の間、原則として入院患者さんへの面会を禁止しています。

面会に関する問い合わせ TEL 0564-21-8111 (代表)

4 新型コロナウイルス感染症特例による電話診察(再診の方)

予約日に来院されての受診が難しい患者さんについて、医師が電話による診察が可能と判断した場合に限り電話による診察を行っています。



詳しくは当院ホームページをご覧ください。

5 新型コロナウイルスに関する移植患者さんへの対応

新型コロナウイルスの感染拡大を鑑み、当院では免疫抑制下にある移植患者さんの危険を可能な限り低減するために、厚生労働省や関連学会の情報をもとに感染対策を実施しています。



詳しくは当院ホームページをご覧ください。

20分で聞けちゃう!旬の健康情報

FMおかざき「イブニングワイド」に当院の医療スタッフが出演!

FMおかざき「イブニングワイド」の「いまどき旬」コーナーでは、月に1回当院の医療スタッフが出演。皆さんの健康づくりに役立つ情報をご紹介します。令和2年10月8日(木)には、乳腺外科 統括部長の村田 透が「いまどきの乳がん診療」についてお話ししました。今後の放送もお楽しみに!



これまでの放送内容はこちらから!



今後の出演予定
with コロナ時代における糖尿病との付き合い方
出演者 内分泌・糖尿病内科 統括部長 渡邊峰守
日時 令和2年11月5日(木)午後6時
地域で見守る「子育て」と「親育て」
出演者 母性看護専門看護師 早瀬麻観子
日時 令和2年12月3日(木)午後6時

診療所と病院の機能連携

賢く病院を利用するために

地域医療を学ぼう!

病院と診療所の機能・役割を分けた上で、連携し医療を提供する〈病診連携〉が、今日の地域医療のベースです。

✓ 普段の健康管理は診療所が担い、専門的検査・治療は病院が担います。

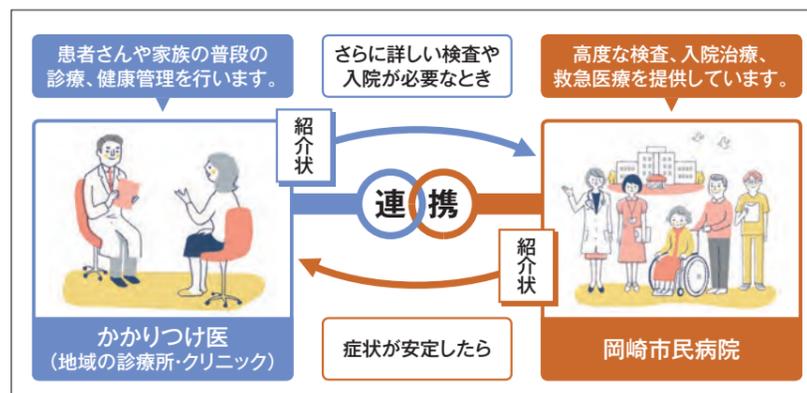
限りある医療資源(診療所、病院、医療従事者)を、効率的に活用するために、我が国では、地域医療連携が進められています。診療所と病院が役割分担した上で、連携して医療を提供する「病診連携」もその一つです。

病診連携においては、普段の健康管理は診療所が担い、何かの病気が疑われ専門的な精密検査や、手術や専門的治療など大がかりな治療が必要な場合は、それが可能な病院を診療所が患者さんに紹介することになります。

これはいわば、地域医療における機能別の分業体制。診療所には総合医が、病院には専門医がいて、患者さんそれぞれに必要な医療を提供します。

✓ 「かかりつけ医」とは、家族にとって頼りになる心強い存在。

病院と診療所の連携を進める上で大切なことは、地域の皆さんが、ご自分の自宅近くで「かかりつけ医」を持つことです。かかりつけ医は、地域の診療所やクリニックの医師で、いつも身近にいて、患者さんはもちろん、そのご家族の健康状態も把握し、どんな相談にも気軽に応じてくれます。つまりは、あなたのご家族のファミリードクター。頼りになる心強い存在になります。



岡崎市民病院では?

当院は、地域医療支援病院です。地域医療支援病院とは、かかりつけ医を支援するとともに、他の医療機関との役割分担と連携を図り、地域医療全体のレベルアップをめざす病院を指します。

地域医療支援病院である当院では、かかりつけ医からの紹介患者さんへの医療提供、救急医療を担っており、通常受診の際には、かかりつけ医からの紹介状が必要です。

地域医療支援病院として、かかりつけ医の支援と、地域医療全体の質の向上に、全力を注いでいます。

当院での治療が終了した後は、またかかりつけ医での診療を受診。かかりつけ医をお持ちでない場合は、ご自宅近くの診療所をご紹介します。

その後は、かかりつけ医と当院との共同診療を実施するなど、地域の先生と緊密に連携し、地域全体で質の高い、そして、患者さん中心の医療提供の機能向上に全力を注いでいます。



プラスα ▶ 食生活改善③ 食塩の取り過ぎに注意。だしを効かせる、酢を加える、香辛料を使うなど調理の工夫でも減塩できます。

プラスα ▶ 食生活改善④ 間食の取りすぎに注意。回数・量・質を考え、1日の栄養素の不足が補えるような食品にしましょう。



県が愛知病院を新型コロナ専門病院として活用。 緩和ケアなどの医療は、岡崎市民病院へ移行します。

岡崎市立愛知病院は、愛知県の意向により、10月15日から新型コロナウイルス感染症の専門病院となり、愛知県へ移管する運びとなりました。岡崎市民病院は緩和ケア病棟を設置するなど、これまで愛知病院が担ってきた緩和ケアなどの医療を引き継いでまいります。当院で実施している緩和ケアについては、当院のホームページでもご紹介しておりますので、ぜひご覧ください。 ※当院の「緩和ケアチーム」については、2ページでもご紹介しています。

緩和ケア病棟とは？

緩和ケア病棟は、がんの進行に伴う精神的な症状があり、がんを治すことを目標にした治療（抗がん剤治療やホルモン療法、放射線治療や手術など）が困難となったり、あるいは、これからの治療を希望しない方を対象としています。緩和ケア病棟と一般の病棟の違いには右記のような点があります。

- 1 体と心の苦痛緩和に力を注ぐ
- 2 苦痛を伴う検査や処置を少なくしている
- 3 患者さんや家族がくつろげるデイルームがある
- 4 面会時間の制限が少ない
- 5 患者さんの家族がすぐしやすい設備がある



岡崎市民病院「緩和ケア」



医学生
対象

第4回 岡崎市民病院 内科セミナーを開催します。

令和3年1月10日(日)に、第4回岡崎市民病院内科セミナーを開催します。このセミナーは、主に内科志望の医学部5年生を対象としたもの。ミニ講義やハンズオン、臨床推論から病院見学まで趣向を凝らした企画を用意しています。この機会に当院の〈内科〉に触れてみませんか？ 医学生の皆さんのご応募をお待ちしております。

日時 令和3年1月10日(日)
午後1時～6時30分

場所 岡崎市民病院

問い合わせ

レジデントセンター
(平日:午前8時30分～午後4時30分)

TEL 0564-66-7093

E-mail secretary@okazakihospital.jp

※都合により中止・変更となる場合があります。

※応募者多数の場合は先着順



次号予告

「口から食べる幸せを守り支える」(仮題)

人にとって食べることは、人生の最期まで持ち続けたい喜び。高齢になってもその喜びを叶えられるように、守り支える当院の「摂食嚥下栄養サポートセンター」の医療チームをご紹介します。



※タイトル、内容等は
変更となる場合があります。

病院広報誌 特設サイト



こちらから



地域の皆さんや連携機関の皆さんと「岡崎市民病院」を情報で繋ぐ、広報誌連動型コミュニケーションサイト。ぜひご覧ください。



LINE〈公式〉アカウント

病院広報誌「つながる」のLINE〈公式〉アカウントを開設しました。QRコードから「友だち追加」をお願いいたします。



岡崎市民病院
OKAZAKI CITY HOSPITAL

〒444-8553 岡崎市高隆寺町字五所合3番地1
TEL 0564-21-8111 <https://www.okazakihospital.jp/>



2020
No.03 10月号

発行責任者/院長 早川文雄 発行/岡崎市民病院 広報グループ 記事提供/中日新聞広告局
編集協力/プロジェクトリンク事務局 発行日/2020年10月23日